

本校にも不登校生徒がいますので、今後の対応につなげていきたいと思えます。不登校生徒の対応がフアンペリ(1年以上状況が変わらない)してきて何をすれば良いかわからなくなっていました。まだまだ出来ることはある、と思うことができました。民間の方など、外部の方と協力しながら対応していきたいです。

大倉さんの活動はとても素晴らしいと思った。一人一人その人間に寄り添い、支援することはなかなかできないことだ。私たち教員ができるようにしている。連携をして、一人でも多くの方が救えるような環境を作っていく必要があると思う。

子どもが不登校になり、保護者も苦しんでいるのを見たことがあります。学校と保護者の2つの視点だけではない、民間の方々にも入ってもらって、別の視点からみてもらう、という形、とても素敵だと思いました。不登校・苦登校の児童に対して、いろいろ関わりの方がいることが分かって、少し安心しました。もっといろいろな人を知ってもらわなければならない。子どもSOSにできるだけ早く気づきたい。

スマートフォンで「鹿屋 フリースクール」を検索した際にPS支援機構パーソナルサービスプログラムのホームページを見たことを思い出しました。今回、大倉さんの話を聞いていて、「10代のうちにに大きくなつきます」と同時に関係機関へのつなぎ方を知らない自分を憂えようと思っていなかったな...と反省。大倉さんの話を聞いて、卒業したあの生徒に紹介したいなとも思うことができました。

「どうにかしたい。」と思っても「家庭のごことは学校では...」と職員間ではなってしまう。大蔵さん達のような人もっと学校現場・地域に入ってほしいと思った。救いたい生徒のごちが頭に浮かんだ。

フリースクールがあるらしい...ということを知ったことがあったが、「ふらつと」さんの存在を初めて知ることができた。不登校児童などの対応に市の方から支援してくれる方が来て、クレーン会議を開いてくれているが、なかなか先が見えていない現状。それよりも見えない部分で悩んでいる子どもがいるかもしれないということを考えたと怖いなと思った。

子どもに寄り添うこと、子どもの思いを感じることの大切さを改めて学べた。また「不登校・苦登校児童・生徒」への多様なアプローチの大切さを知ることができた。

私たちの住む大隅でも様々な事情で苦しんでいる子がいる現状に驚いた。学校だけでの対応はもはや難しいことがわかった。悩む子どもを中心に他職種とチームで支援させていくことの必要性を感じた。

今の不登校生に対する早い段階でのアプローチがいかに大事かを痛感しました。学校だけでなく地域・民間等の積極的な連携・チームが作れるといいなと思いました。子ども・家庭に対して様々な機関が関わられると「鹿屋に住みたい」と思える場所になるのではと思いました。人との出会いはとても大事だと痛感しました。

不登校・中退に対応するためには、民間の団体との連携が必要である。我々教員と違う視点から、つまり福祉の視点からなされていくことにより、様々な情報が共有することにより、様々なことが得られるだろう。また大隅地区に不登校等に対応するためのセンターを作る話が出てきたが良いことだと思える。

クレーン会議に民間の方が入って断られたという話があったが、今まで民間の方が入るとかいう考えがなかった。幅広い方々に意見をいただくためにいろいろな方面から入ってもらわなければならないと感じた。

「ふらつと」のような場が鹿屋市内にもっとあればよいのにと思う。本校にも気になる子どもがたくさんいる。校内で情報交換の場はあるが対応の担当が一人で抱えているケースが多い。

「ごころ」さんの具体的な活動を知ったのは正直初めてでした。直接だけではなく、ラインや電話など24時間対応という点もたいへんありがたいと思えることでした。身近にこのような取組をしているところがあるということを広めていく必要があると思えます。

民間ならではのフットワークの軽さや柔軟に寄り添いながら支援されていることを知るいい機会になりました。
不登校、ひきこもり児童生徒には関係機関とチームとして連携して対応するのが大切だということがわかった。いろいろな体験ができる場を作ること必要だと思った。
不登校の児童が悩みを打ち明けられるSNSのサービスがありました。

鹿屋市にこのような施設があるとは知らなかった。話には聞いたことがあったので、その所長さんのお話が聞けて、身近に感じ、利用しやすいと思っただ。学校に帰ったらこの施設について、職員室に還元したいと思っただ。
大隅にもこのような支援機構ができて本当に良かったと思っただ。バーチャルサービス(PS支援機構)について広く紹介していってほしい。
すごく興味深い話でした。不登校3日で、対応すべきだという言葉に我学校でも考えないかなと思っただ。すごく素敵な活動をされていて日本もすてたもんじやないかなと思っただし、見学に行きたいと思っただ。何か私もできないかなと思える機会になったことがありがたかった。
講話の中で、学校内に子どもの居場所(さぼれる場)があればという事でしたが、正にその通りであると感じた。なんとか設置ができないか、検討していけたらと思っただ。

一人の子どものために、このように活動をしていることを聞くことができで大変勉強になった。一人の子どもも見逃さない。そのためにはどのようなことするとう姿勢に感銘を受けた。私も大倉さんのような一人一人の人間を大切にする人間でありたいと感じた。
不登校で困っている子どもたちをほとんどボランティアの様なかたちで受け入れてくれているのでありがたい存在であると思っただ。
不登校児童・生徒に対処するのにもやはり早めのアプローチが大切なのだわかりました。受け入れて下さる施設やそこにつとめる方々との取り組みや心配りに感心しました。
不登校になった際、教員としてなんとか学校に目を向けさせることを意識させたが、生徒自身のことを考えると、民間をうまく活用していくことも大事だと感じた。一方で、学校とのつながりを失わせないためには、どうすべきなのかという課題も感じた。